

神奈川畜産情報

発行所
神奈川県畜産会
横浜市磯子区西町14-3
畜産センター内
電話 045(761)4191
FAX 045(759)1162
発行人
大川良一

(公社)中央畜産会からのお知らせ 畜産映像情報

がんばる!畜産!5

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!
映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!
配信内容:畜産の最新研究・技術を見る/豚の肉質を中心とした育種改良技術/鶏肉特選第1弾江戸文化を受け継ぐ東京しゃも大格闘/他

スマートフォンからはこちら
パソコンからはこちらで検索
がんばる畜産

(公社)中央畜産会 経営支援部(情報) TEL03-6206-0846

隔月1回(1日)発行
〔神奈川畜産情報(平成18年1月号以降)はホームページでもご覧になれます〕

神奈川県畜産会のホームページ
「かながわ畜産ひろば」〔<http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm>〕

畜産生産者団体代表、黒岩県知事を訪問

～県の飼料高騰対策支援のお礼～

令和4年7月27日志澤勝畜産振興会会長をはじめ、井上敦巳(県酪連理事)石井廣(県肉牛経営者協議会副会長)山口昌興(県養豚協会理事長)彦坂誠(畜産会養鶏部会長)小島信男(畜産振興会副会長)石田聡(畜産会専務)の七名は県の飼料高騰対策支援に対するお礼目的で黒岩県知事、小板橋副知事、鈴木環境農政局長を表敬訪問しました。

限られた時間でしたが、支援に対する感謝の意と今後とも安全で安心な畜産物を県民に提供していくことを約束し県庁を後にしました。

知事や県幹部におかれては、今回の支援を契機に神奈川県の畜産業がますます頑張っていく決意を聞いて、将来に大きな期待を抱いているように感じました。(畜産会 専務)



黒岩県知事(写真前列右から四人目)らと記念撮影(県庁新庁舎第五会議室)

畜産経営体質強化策で県と生産者団体が活発に議論！
～今年度畜産フードコレクションは事実上開催困難～

畜産会は、八月二十六日、県と県内畜産団体代表らと今後の畜産経営の体質強化の取組みについて、打合せ会を開催した。県からは、県高尾参事兼畜産課長にもご出席頂き、令和四年度の畜産関係事業の実施方針や飼料作物増産とエコフィードの活用による飼料基盤の安定強化についての提案をいただきました。こうした経営体質強化についての検討の場は、「飼料高騰を踏まえた本県畜産の体質強化に向けた協議会」が設置されているが、県の事業方針を受けて急遽、協議会とは別に直接関係が深い生産者団体を招集した。県の説明によると、「四年度畜産関係の県の事業方針は、飼料高騰対策等に注力していきたい。したがって、畜産フードコレクション等の各種イベント等については、今年度は人的支援が難しい」との話がありました。この畜産フードコレクションに代わる認知度向上の取組みを「各団体で、今だからできることを考える。」ことになりました。また、畜産経営の体質強化に向けては、肉牛経営者協議会よりゲノミック評価の新技術を活用し、酪農経営と連携し県内素牛確保と酪農経営の収益向上に繋げて

いく取組みが紹介され、酪農団体からは是非取り組んでいきたい意見が出され、畜産会としてもこの取組みの施策・事業化に向けて取り組んでいきたい。既に、約九億一千万円におよぶ飼料高騰対策補助事業が開始されており、この支援を糧に、本県畜産経営の持続可能な発展に向けての生産者の取組みが注目と期待を浴びている。本会としては飼料高騰対策補助事業の生産者支援、前述の協議会の事務局として、本県畜産経営の体質強化の取組みに貢献していく。
(畜産会：石田)

地方競馬の収益金は
畜産振興に役立てられています。

川崎競馬開催日

10月10日(月)～
10月14日(金)ナイター
11月7日(月)～
11月11日(金)ナイター

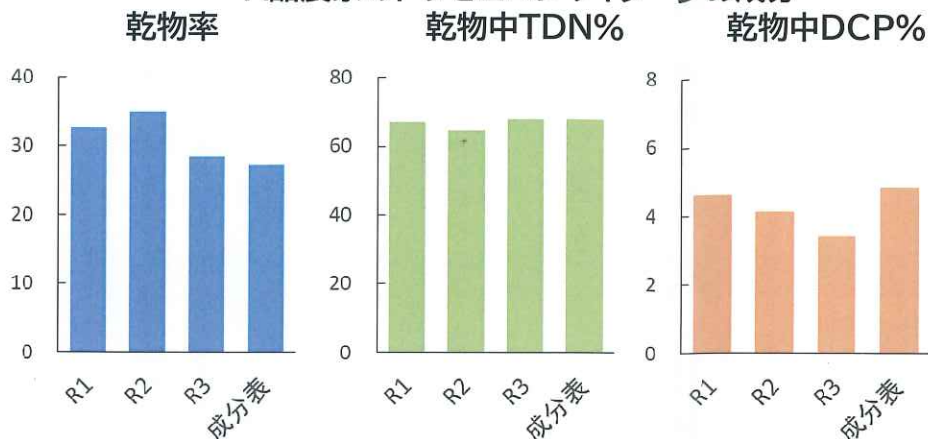


意見交換会の様子

今こそ自給飼料の成分分析 ～最近の飼料情勢を踏まえて～

世界情勢の変化や燃料価格の高騰によって、飼料価格の高騰や乾牧草の入手が困難な状況が続いています。自給飼料やエコフィードなど、利用可能な飼料を無駄なく使って、家畜の健康を維持し、生産を継続するためには、飼料成分の把握が重要です。

A酪農家のトウモロコシサイレージの成分



乾物率、TDN、DCPが年毎に変化、成分表の値とも差あり

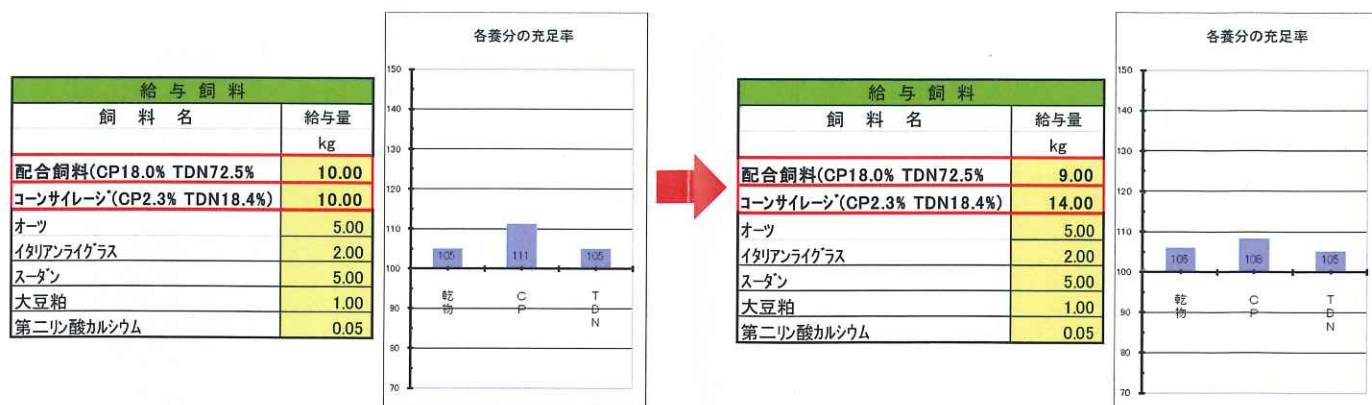
トウモロコシサイレージの成分は、品種、刈取りステージ、気象条件により変化します。

下記の事例は、体重700kg、乳量25kgの乳牛の給与診断事例です。

この事例では、コーンサイレージ(CP2.3% TDN18.4%)を4kg増量することで、配合飼料(CP18.0%、TDN72.5%)を1kg削減することができます。

飼料の成分を把握して、生育ステージや泌乳能力に合わせた適正な飼料設計で給与することは、無駄なく飼料を利用するだけでなく、生産量の向上にもつながります。

飼料給与診断(充足率)



飼料の無駄削減のキーワード

☆食べ残し、食べこぼし

頭数に合った給与量、飼槽の汚れ、乾草の切断、牛床への引込み、牛のつなぎ替え、エサ押し、飲水の不足

☆飼料保管時のロス

カビ、水濡れ、ネズミ被害、サイレージ切断長、ハーベスタの刃の研磨、踏圧、二次発酵の防止

☆治療費、修理費、電気代

分娩事故、乳房炎、長期空胎の防止、機械の日常点検とメンテナンス、電気使用量と契約アンペアの見直し

自給飼料の成分分析、飼料給与診断、飼養管理の変更などを検討している方は、畜産技術センター普及指導課までご相談下さい。

よろず相談・・・

みなさん、こんにちは。

今年の夏は暑かったですね、過去二番目の暑さだそうです。今月に入り、朝夕は大分涼しくなり、当所の周りの田んぼも稲穂が薄く色づき、秋の気配を感じる今日この頃です。

さて、私が勤務する湘南家畜保健衛生所（以下、湘南家保）ですが、昭和四十七年五月に現在地

（平塚市寺田縄三四五）

に設置されましたが、時代は流れ、五十年の歳月が経ちました。その間に県内の生産者も

乳用牛百五十二戸、肉用牛六十五戸、豚百十八戸、採卵鶏（百羽以上）七十七戸（令和三年二月一日時点）と減少の一途をたどり、家畜保健衛生所（以下、家保）も二か所と一出張所になりました。皆さんの中には、家保が遠くなったなあと感じている方もいらっしゃるかもしれません。家保では、皆さんご存じのとおり、家畜の病気を防ぎ、安全・安心な畜産物を生産するため、家畜の検査や畜産農家に

家保だより

対する衛生指導を行うとともに、畜産環境対策、獣医事指導等を行い、家畜をとりまく環境を守り、家畜や畜産物の安全性の確保に努めていますが、まず第一に皆さんに一番近い存在でありたいと思っています。

湘南家保に今年四人の新人職員が入りました。いずれもフレッシュな気持ちで仕事にまい進しています。フレッシュといえば、家保から毎月お送りしている

「家畜保健衛生だより」ですが、新人職員のアイデアで今回読みやすいものになったなと思っています。毎回というわけにはいかないかもしれませんが、家保を身近に感じてもらえるように、それぞれが頑張っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

家保の職員は家畜衛生が専門ですが、県その他の機関と連携することは可能です。お悩み事がある場合には、まずは家保の職員にご相談ください。

（湘南家畜保健衛生所 企画指導課 後藤佐知子）

牛マルキン

（肉用牛肥育経営安定交付金制度）

交付状況

令和四年四月～六月の交付金確定単価

（肥育牛一頭当たり）

○肉専用種

四月～六月 交付なし

○交雑種

四月～五月 交付なし

プーチン攻める ゼレ引かぬ 互いに意地張りや死者増える

ロシアがウクライナに軍事侵攻して六ヶ月。ロシアのプーチン大統領は、ウクライナが西側の陣営に行ってしまうたらロシアが危ない。だからウクライナをロシア領に留めなければならぬ。ウクライナにロシアが侵攻するのはロシアが生き延びる唯一の方策である。この理論は

第二次世界大戦時の日本帝国の大東亜共栄圏構想に似ている。世界に物資の流通を絶たれたら生きていけない。オランダ、イギリス等の植民地解放を名目にしてフィリピン、タイ、ビルマ等に軍事侵攻。世界を敵にして戦争を仕掛け、多数の国民の命を奪った果てに無条件降伏したのが七十七年前

新むらすずめ

ウクライナの兵士の死者数は九千人近くに、民間人は五五〇〇人としたが、実数はこれを上回るとのこと。

旧日本兵の死因は補給を絶たれて食料無しの餓死やマラリヤ等の戦病死が圧倒的多数数だったが、ウクライナでは戦闘の火器によるものでしょうね。

ウクライナ市民の写真には大型の犬を連れて歩く姿を見かけたが、七十七年前の日本だったら、その犬は食糧になつていたかも。犬も食わない話でしょうか。

（忠九朗）

六月

（確定）三〇、九三九、三三

○乳用種

四月

（確定）三九、九〇三、三三

五月

（確定）四二、二六四、九三

六月

（確定）四三、八九二、一三